

看護管理責任者 様

**【研究代表者】**

公益社団法人岡山県看護協会  
社会経済福祉委員会  
委員長 吉田 由理

「看護業務効率化・改善などの取り組み事例」の募集についてお願い

時下、貴施設におかれましてはますますご清祥のことと存じます。

日頃より、協会活動につきましてはご理解ご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、日本看護協会では超少子高齢化のもと労働力人口が減少するなかで、看護職がより専門性を発揮できる働き方を推進し、質の高い医療・看護ケアを限られた人材で提供し続けていくために看護業務の効率化・生産性向上を推進しています。看護業務の効率化が目指す成果は、看護ケア内容の充実や、看護業務効率化によって生み出された労働力や時間の活用による、看護の専門性の更なる発揮、看護職のモチベーションの維持、向上、およびワーク・ライフ・バランスの取れた働き方の実現です。2019 年度から 5 年間にわたり厚生労働省補助金事業「看護業務効率化先進事例収集・周知事業」を実施し、看護業務効率化に取り組む先進的・先駆的事例の収集・周知・普及に取り組み、施設で看護業務効率化の取り組みが進められるよう「看護業務効率化取り組みガイド」も作成されたところです。

岡山県でも日本看護協会の「看護業務効率化アワード」へ応募された施設もありましたが、他の施設でも看護業務の効率化や看護業務改善などの取り組みがなされていると思います。

社会経済福祉委員会では看護職者の労働条件などの実態把握を行うために調査を行っていましたが、今年度は岡山県内施設での「看護業務効率化・改善などの取り組み事例」を募集し冊子にまとめ、共有することで自施設での取り組みの参考になったり、新たなアイデアの発見に繋がったりと、視点を変えてみるができると考えています。

つきましては、別紙募集要項をご覧の上、自施設での取り組みについて看護管理責任者もしくはその職位に相当する方に、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

なお、この募集は強制ではなく、自由意思によるものであり、不参加による不利益を被ることはありません。ご応募につきましては、当協会でも厳重に管理し、個人情報保護および守秘義務は遵守いたします。

**【募集に関するお問い合わせ先】**

公益社団法人 岡山県看護協会 社会経済福祉委員会 委員長 吉田 由理  
担当常務：武田 事務担当：森岡  
〒700-0805 岡山市北区兵団 4-31  
TEL：086-226-3638（代表） FAX：086-226-1157  
e-mail：ymorioka@nurse.okayama.okayama.jp（森岡）

## 「看護業務効率化・改善などの取り組み事例」 募集要項

募集期間	2024年9月2日（月）～ 2024年11月30日（土）
募集対象	直近5年以内に看護業務の効率化・改善などにより、 <ul style="list-style-type: none"><li>・看護ケア内容の充実</li><li>・看護の専門性の発揮</li><li>・モチベーションの維持、向上</li><li>・ワーク・ライフ・バランスの取れた働き方 等の</li></ul> 成果・効果を上げている取り組みなどを広く募集します。 看護業務効率化の考え方については、 日本看護協会ホームページから、「看護業務効率化取り組みガイド」（ <a href="https://kango-award.jp/">https://kango-award.jp/</a> ）P7～P8を参考にしてください。 該当するか迷われる場合は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。
応募方法	公益社団法人岡山県看護協会ホームページTOPページ （ <a href="https://www.nurse.okayama.okayama.jp/">https://www.nurse.okayama.okayama.jp/</a> ） 新着情報 から ▶2024-09-02「看護業務効率化・改善などの取り組み事例」 の募集についてのお願い を選択いただき 「看護業務効率化・改善などの取り組み事例」報告用紙 （3枚）をダウンロードし、必要事項入力後、下記送付先へ メールにてご送付ください。 【送付先】 ymorioka@nurse.okayama.okayama.jp（岡山県看護協会 森岡） <ul style="list-style-type: none"><li>・報告用紙は、Wordで送付してください。</li><li>・写真掲載を希望される場合はJPGで配置してください。</li><li>・具体的な取組内容は、2枚以内に収めてください。</li></ul>
公表方法	冊子にまとめ、岡山県看護協会会員の病院へ送付します。 岡山県看護協会ホームページへ掲載します。
送付先 お問い合わせ先	公益社団法人 岡山県看護協会 社会経済福祉委員会 委員長 吉田 由理 担当常務：武田 事務担当：森岡 〒700-0805 岡山市北区兵団 4-31 TEL：086-226-3638（代表） FAX：086-226-1157 e-mail：ymorioka@nurse.okayama.okayama.jp（森岡）

## 第1章

## 看護業務効率化の考え方

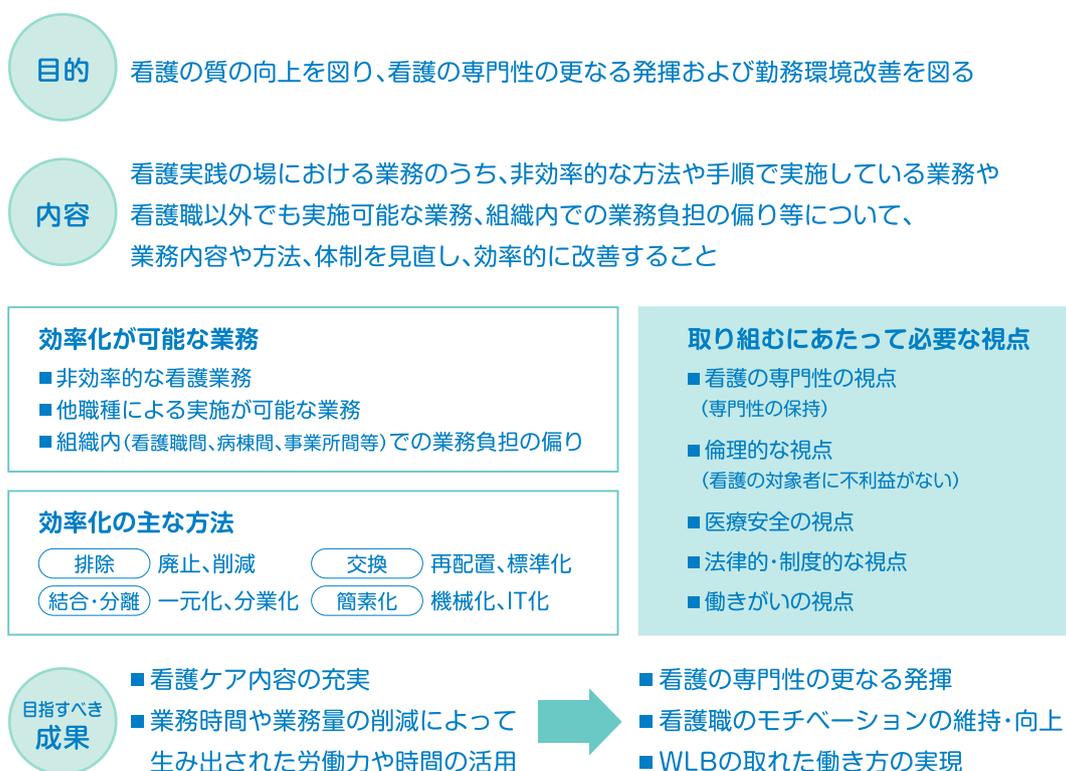
## 1. 看護業務効率化の考え方

## 1-1 看護業務効率化とは——その目的と目指す成果

看護業務効率化とは(図5)、看護の対象者一人ひとりに対し質の高いケアを提供するために、「看護の質の向上を図り、看護の専門性の更なる発揮および勤務環境改善を図る」ことを目的とし、看護実践の場における業務のうち、非効率的な方法や手順で実施している業務や看護職員以外でも実施可能な業務、組織内の業務負担の偏り等について、業務内容や方法、体制を見直し、効率的な業務に改善することです。

看護業務効率化が目指す成果は、看護ケア内容の充実や、看護業務効率化によって生み出された労働力や時間の活用による、看護の専門性の更なる発揮、看護職のモチベーションの維持・向上、およびWLB(ワーク・ライフ・バランス)の取れた働き方の実現です。

【図5 看護業務効率化とは】



## 1-2 看護業務効率化で解決可能な課題

日々の看護実践のなかで、業務の効率化が必要ではないか、もっと効率的に実施できるのではないかと  
思う業務や場面はありませんか。日本看護協会が収集した事例では、以下のようなことを課題として取り  
組んでいました。つまり、これらは、看護業務効率化で解決が可能な課題といえます。

### 1. 非効率的な看護業務

非効率的な方法や手順で業務を行っていることで、多くの時間がかかったり、患者に迅速な対応が  
できない

例)

- 重複した内容の帳票類の作成により、時間がかかる
- ベッドサイド業務がすべて終わった後にまとめて記録をしているため、超過勤務となる
- 勤務交代時の申し送り内容が統一されていないため、何度も確認が必要になり、患者へのケアがスムーズに  
提供できない
- スマートフォンや職員に一齐に情報伝達できるシステムの導入等、業務の効率化に寄与すると考えられる  
ICT等の道具や方法を取り入れていない(または必要数がない)ために時間や手間がかかっている
- 病棟ごとに物品の場所が異なるため、他病棟の応援に行った際に、モノを探すのに時間がかかる
- 病棟の構造上、同勤務帯の看護師や他職種に声をかけたくても居場所を探すのに時間がかかる
- 外来検査部門との情報共有のために何度も電話をかける必要がある

### 2. 他職種による実施が可能な業務の実施

目的が不明瞭なまま従来からの慣習などで、看護職員が看護の専門性を必要としない業務や他職  
種でも可能な業務を抱えて、業務が終わらなかったり、本来やりたい看護ができていない

例)

【看護の専門性を必要としない業務】

- 掃除や洗濯、使用していないベッドのシーツ交換などの周辺業務
- どの患者にも共通する入院等の説明、施設案内
- 検体や薬剤の搬送業務

【他職種でも実施可能な業務】

- ミキシングなど病棟における薬剤関連業務
- 採血やリハビリ中の喀痰吸引など、他の医療専門職が実施可能な業務

### 3. 組織内での業務負担の偏り

看護職員間や病棟間、事業所間で忙しさが異なり、一部の職員の業務量が膨大になるなど、業務負  
担に偏りがある

例)

- 日によって病棟ごとの看護業務量に差があり、業務量の多い病棟の負担が大きい
- 中間管理職(師長や主任等)の業務が多いうえに煩雑で、超過勤務が多くなっている

# 「看護業務効率化・改善などの取り組み事例」報告用紙

## ●基本情報

記入日 年 月 日

氏名	(フリガナ)	(職位)
施設名	(施設名)	(会員番号)
	(住所)〒	
	Tel ( )	Fax ( )
	(メールアドレス)	
取組部署名		

## ●上長の同意

応募については施設代表者および看護責任者のご了承を得てください。

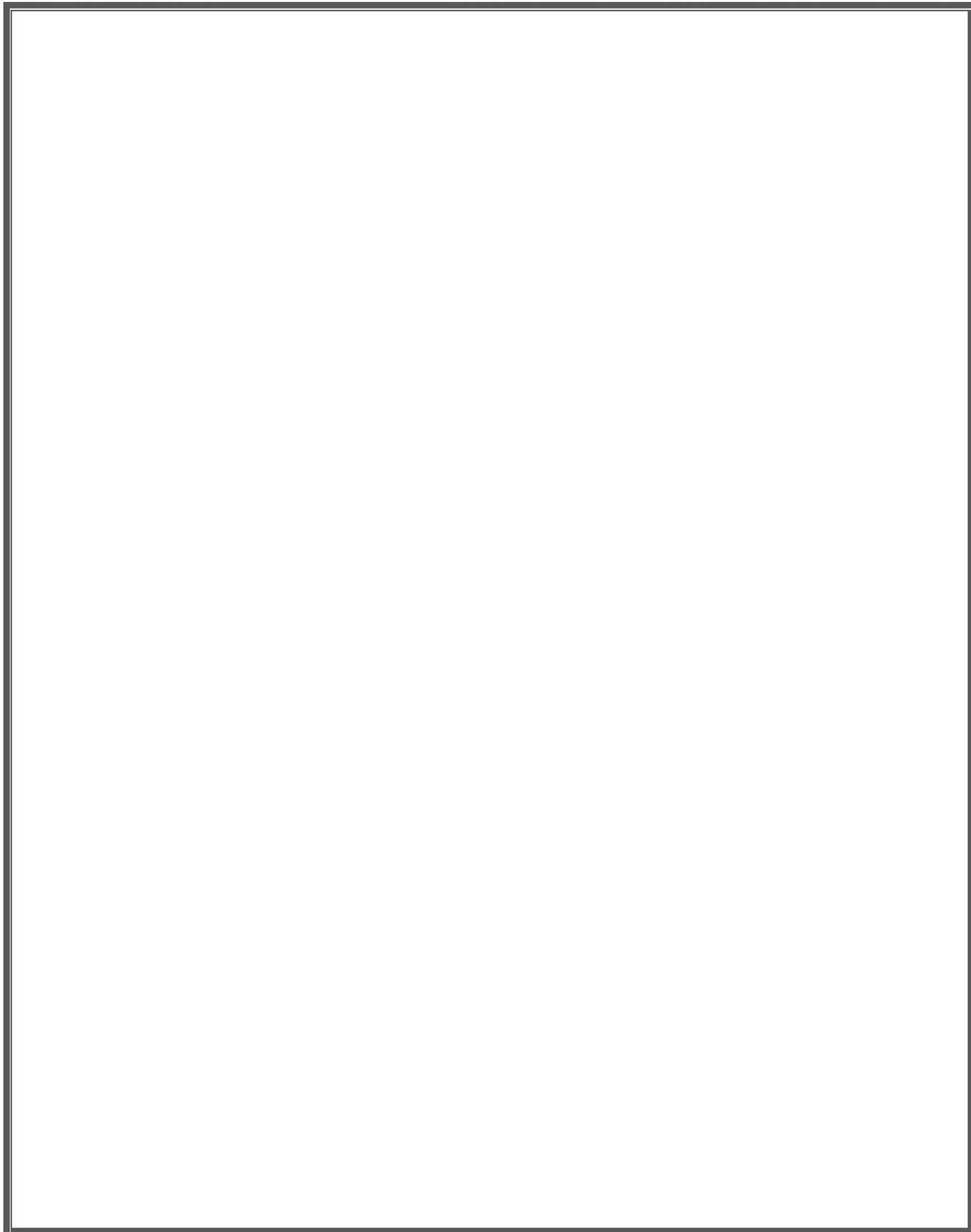
ご了承を得た 施設代表について	(職位)	(氏名)
ご了承を得た 看護責任について	(職位)	(氏名)

## ●取組概要

取組内容	業務改善に関すること
該当項目に ○を表示	タスク・シフト/シェア、多職種連携に関すること
	AI・ICT等の活用に関すること
	その他の工夫( )
募集要件 ご確認ください	1. 応募には施設代表者及び看護責任者の了承を得ていること 2. 応募する取り組みによって医療安全が損なわれていないこと 3. 応募する取り組みが看護業務改善・効率化、看護の質向上につながっていること 4. 開示すべき利益相反関係にある企業などがないこと
タイトル	
実施期間	年 月 日 ~ 年 月 日(終了予定)
実施の 背景・課題	
目的・目標	
成果・効果	

●具体的な取組内容

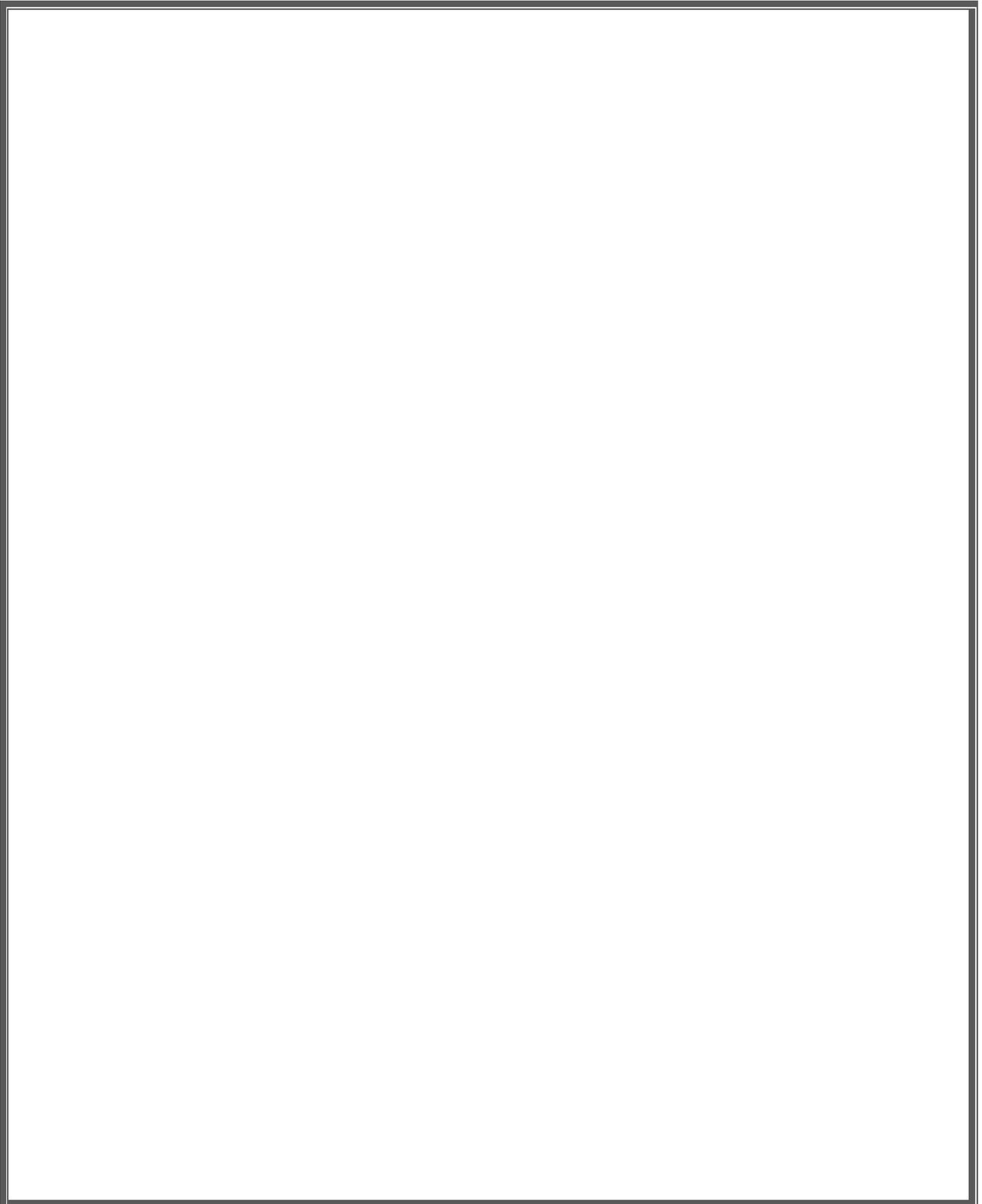
※2枚以内に取りめてください(写真は jpg で配置してください)



期 限 :令和 6 年 11 月 30 日(土)

送付先 e-mail:yiorioka@nurse.okayama.okayama.jp

- ・添付している他県施設の報告書のように、こちらでレイアウトしますので、施設名、タイトル、実施の背景・課題、目的・目標、取り組み内容、成果・効果の入力内容の参考にしてください。
- ・手書きされた用紙を PDF にして添付するのではなく、Word で送付してください。



期 限 :令和6年11月30日(土)

送付先 e-mail:yiorioka@nurse.okayama.okayama.jp

- ・添付している他県施設の報告書のように、こちらでレイアウトしますので、施設名、タイトル、実施の背景・課題、目的・目標、取り組み内容、成果・効果の入力内容の参考にしてください。
- ・手書きされた用紙をPDFにして添付するのではなく、Wordで送付してください。

看護業務効率化先進事例収集・周知事業 看護業務の効率化先進事例アワード2023



スマートフォンを活用した妊婦への説明と情報提供  
—業務の効率化と利便性の向上をめざして—

学校法人聖路加国際大学 聖路加国際病院

東京都中央区  
520床／職員数 2,228 名（うち看護職員数975名）



課題・背景

①産科の助産師・看護師の負担

○産科外来での産婦の説明に時間を要すること、紙媒体テキストの修正、母親学級の案内・予約への業務負担や問い合わせ対応、助産師間の連絡調整など

②妊婦の負担と利便性の悪さ

○週数に応じた情報提供への困難感や、母親学級・両親学級の予約には来院を要することから、妊婦の負担が大きい

③コロナ禍での情報発信の困難感

○災害発生時等の緊急時には、妊婦自らホームページの情報にアクセスすることが必要であり、タイムリーな情報共有ができない

目的・目標

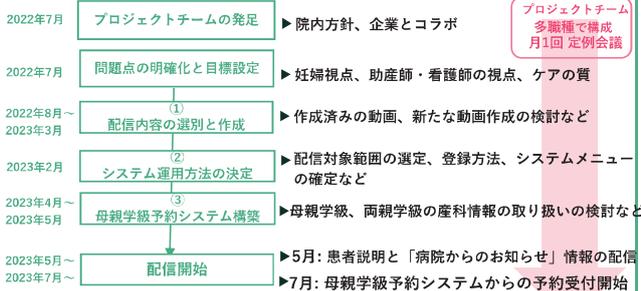
①業務の効率化、費用の削減

②妊婦の利便性向上と効果的な情報提供

▶ 妊婦への情報提供のICT化

取り組み内容

取り組みの流れ



① 配信内容の選別と作成

医師、看護職、薬剤師、栄養士、歯科衛生士が分担作成

- システムベンダーのサンプルを確認
- 配信内容の選別と作成
  - ・週数ごとの配信内容を決定
  - ・音声動画は3～4分以内で作成
- 「病院からのお知らせ」にて毎月季節に合わせたトピックス配信



② システム運用方法の決定

予約システムベンダーとプロジェクトメンバーでシステムの管理方法を検討

- システムメニューの確定
  - ・スマートフォンの母親学級の案内から予約システムにつながる
- 配信対象者、登録方法、停止方法の確定
  - ・受付時に診察券のバーコード情報を読み取ることで登録できる
- 妊娠の各週数に配信するメッセージの確定
- 産科病棟、産科外来での周知活動



③ 母親学級の予約システムの構築

予約システムを作成（※）し、コミュニケーションアプリ経由で配信  
※本院にて予約システムを作成

- 予約管理ツールで母親学級予約システムを作成
  - ・スマートフォンの母親学級の案内から予約システムにつながる
- 母親学級、両親学級の参加者情報の取り扱い
  - ・受付時に診察券のバーコード情報を読み取る
- 助産師が予約管理ツールで予約枠を作成

成果・効果

① 業務時間の削減

年間約 150～180時間の業務時間削減効果

○集団説明会に要する時間の減少

1回165分×月3回×12か月  
=99時間/年間

▶ 初回の集団説明会の廃止により  
0時間

○母親学級の説明と予約説明に要する時間の減少

5～8分/妊婦1人  
※分選数1,400件/年

▶ 2～3分/妊婦1人

② 印刷費用の削減

○母親学級テキストの印刷廃止  
※印刷部数1,560件/年

年間約 45万円 の経費削減効果

③ スタッフの負担感の軽減

アプリ・予約システム導入後の業務・精神的・身体的負担、満足度についてアンケート調査を実施 対象：外来・病棟助産師・看護師の20名

○負担について：「とても負担が減った」「やや負担が減った」と答えた割合

・業務負担 : 70%  
・精神的負担 : 60%  
・身体的負担 : 60%

○満足度：「非常に満足している」「やや満足している」と答えた割合

90%

④ 妊婦にとっての利便性の向上

配信開始3週間後、利用者200人にWebアンケートを行った（回収率40%）

利便性：97.4% 便利

動画の理解度：96.1% わかりやすい



## 感染管理認定看護師が取り組んだ「汚物処理改革のススメ」

### 社会福祉法人 恩賜財団 京都済生会病院

京都府長岡京市  
288床／職員数 656 名（うち看護職員数346名）



### 課題・背景

#### ①汚物処理室での使用済み機材の取り扱いに感染リスクがある

- 洗浄時間が長く、尿便器をその都度ベッドパンウォッシャー※1（以下BPW）で洗浄できない
- 汚染がひどい場合、洗浄後の容器に洗い残しがある
- BPW内に洗浄後の清潔な容器が残っている場合、汚染容器との入れ替えの工程で汚染するリスクがある など

#### ②汚物処理室内での作業に手間と時間がかかっている

- 主に看護補助者がBPWへ容器のセッティング、洗浄後の乾燥機への移動、乾燥後の棚への収納を行っている

※1ベッドパンウォッシャー（BPW）: 尿や便が入ったままの汚物容器を洗浄する装置

### 目的・目標

#### 感染リスクが低く、作業時間が短い汚染処理を実現する

- ① 看護補助者の1日あたりの汚物処理に関連する作業時間を現状の半分以下にする
- ② 汚物処理室で洗浄を要している器材を可能な限りディスポ化する

#### ▶ BPWを廃止し、マセレーター※2を導入する

※2マセレーター: 再生紙で作られた単回使用の尿便器等を汚物ごと粉碎、排水処理を行う装置

### 取り組み内容

2019年10月～  
2021年7月 **マセレーターの導入まで**

#### シミュレーションの実施

前提条件: 1病棟の患者10人（男5女5）が1日6個の容器を使用し、毎回洗浄（廃棄）

#### ① 作業時間

・BPW: 6分/回×（ポータブル35回、尿器（5本ずつ）5回）  
= 240分/日  
（+陰部洗浄用ボトル、回収容器などの洗浄・乾燥）

・マセレーター: 1個ずつ廃棄し稼働した場合 30分/日

BPW	回収	BPWに設置	洗浄	乾燥機へ	乾燥	収納	6分
		3分	(10分)	2分	(15分)	1分	
マセレーター	回収	廃棄	破碎				0.5分
		0.5分	(2分)				

▶ 1病棟1日あたり**210分**の業務時間の短縮

#### ② 1年間の人件費を含むコスト

- ・BPW 23,115,798円
- ・マセレーター **22,412,178円**

2021年8月～  
2022年5月 **マセレーター導入決定から新病院移転まで**

#### ① 汚物処理室で洗浄を要する物品の変更

- ディスポタイプに変更  
吸引ビン、畜尿容器
- ケア方法の変更  
陰部洗浄から陰部清拭ワイプを導入し陰部洗浄物品を廃止

#### ② デモンストレーション（1か月間）

#### ③ パルプ容器の選定

#### ④ 汚物処理室のレイアウトの決定

#### ⑤ 看護職員、看護補助者にマセレーター本体を用いたレクチャーを7回実施

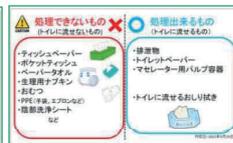
#### ⑥ 不要な蓄尿、尿量のカウントなどについて医師と協議



①物品の変更  
(ケア方法の変更)



④汚物処理室のレイアウトの決定



⑤レクチャーにて説明

### 成果・効果

#### ① 感染リスクの減少

○耐性菌やClostridioides difficile(CD)の新規発生が減少

MRSAの発生密度  
(1,000延べ入院患者) 0.86 ▶ **0.45**

ESBL産生菌の発生密度  
(1,000延べ入院患者) 0.64 ▶ **0.44**

CD（抗原陽性）の検出数 85件 ▶ **31件**

#### ② ディスポ化による看護補助者の作業時間の短縮

○洗浄が必要な容器の洗浄作業、乾燥作業 **0分**

○看護補助者の声

- ・時短を図れていると実感している
- ・尿器や便器などが不足して探し回る負担の減少

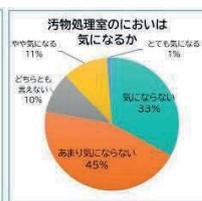
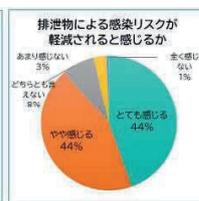
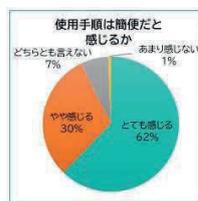
#### ③ コストの削減

○1年間のランニングコスト（本体台、パルプ容器、光熱水費）  
BPW 11,692,435円 ▶ **マセレーター 9,680,630円**

#### 【算出方法】

- ・BPWの運転回数はパルプ容器の使用量を基に算出
- ・物品は使用ごとに洗浄または廃棄すると想定
- ・尿器は5つで1回、回収容器は3つで1回洗浄すると想定（BPW）
- ・本体台は10年間使用すると仮定し、総額を10で分割

#### ④ 職員の満足度が高い



看護職員・看護補助者アンケート（n=167）より（2022年9月実施）